

0歳の予防接種スケジュール

ワクチンデビューは、生後2か月の誕生日

0歳の赤ちゃんをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、生後2か月になったらできるだけ早くワクチンを受けることが大切です。ワクチンの種類、接種回数が多いので、かかりつけの医師と相談のうえ同時接種で受けましょう。

ワクチン名	接種済み ☑	誕生											1歳
		1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	
不活化ワクチン B型肝炎	任意	□□□	① → ② → ③										
生ワクチン ロタウイルス	任意	1価 □□ 5価 □□□	① → ② → ③										
不活化ワクチン ヒブ	定期	□□□□	① → ② → ③ → ④										
不活化ワクチン 小児用肺炎球菌	定期	□□□□	① → ② → ③ → ④										
不活化ワクチン 四種混合 (DPT-IPV)	定期	□□□□	① → ② → ③ → ④										
生ワクチン BCG	定期	□	①										
不活化ワクチン 三種混合 (DPT) ポリオ (IPV単独)	定期	□□□□ □□□□	① → ② → ③ → ④										

必要回数を接種するために生後2か月に生後2か月前に同時接種で受けましょう。

1価ワクチンと5価ワクチンがあります。できるだけ生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けましょう。

2013年度から定期接種。3回目までを生後6か月までに受けるようにしましょう。

1歳代の追加接種を忘れずに受けましょう。
※1歳の誕生日から、MR(麻しん風しん)・おたふくかせ・みずぼうそうワクチンも受けられます。

個別接種の場合は四種混合などと同時接種で受けられます。

三種混合 (DPT) とポリオの接種が完了していない場合のスケジュールは、かかりつけ医にご相談ください。

不活化ワクチン 注射・スタンプ式
 生ワクチン 経口

定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。
任意 多くは有料(自己負担)。ワクチンによっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。

定期予防接種の対象年齢
 任意接種の接種できる年齢

おすすめの接種時期(数字は接種回数)
●次にほかの種類のワクチンが接種できるのは、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日から、生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日からです。

同時接種 同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。国や日本小児科学会は乳幼児の接種部位として大腿外側部も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。 詳しい情報は <http://www.know-vpd.jp/>